

都道府県の人口と増減率

	人口(万人)	増減率 (前年比%)
北海道	525.0	▲0.68 (27)
青森県	124.6	▲1.31 (46)
岩手県	122.7	▲1.12 (43)
宮城県	230.6	▲0.40 (12)
秋田県	96.6	▲1.48 (47)
山形県	107.8	▲1.15 (44)
福島県	184.6	▲0.98 (38)
茨城県	286.0	▲0.59 (22)
栃木県	193.4	▲0.61 (16)
群馬県	194.2	▲0.50 (16)
千葉県	735.0	0.27 (7)
東京都	625.9	0.08 (1)
神奈川県	1392.1	0.71 (4)
新潟県	919.8	0.24 (2)
富山県	222.3	▲1.00 (39)
石川県	104.4	▲0.66 (25)
福井県	113.8	▲0.50 (16)
山梨県	76.8	▲0.78 (32)
長野県	81.1	▲0.80 (33)
岐阜県	204.9	▲0.70 (29)
静岡県	198.7	▲0.51 (18)
愛知県	364.4	▲0.43 (13)
三重県	755.2	0.21 (5)
滋賀県	178.1	▲0.58 (21)
京都府	141.4	0.11 (6)
大阪府	258.3	▲0.31 (10)
兵庫県	880.9	▲0.04 (8)
奈良県	546.6	▲0.33 (11)
和歌山県	133.0	▲0.66 (25)
徳島県	92.5	▲1.05 (40)
香川県	55.6	▲0.86 (35)
愛媛県	67.4	▲0.84 (34)
高知県	189.0	▲0.46 (14)
福岡県	280.4	▲0.46 (14)
佐賀県	135.8	▲0.88 (36)
熊本県	72.8	▲1.09 (42)
大分県	95.6	▲0.59 (22)
鹿児島県	133.9	▲0.93 (37)
沖縄県	69.8	▲1.15 (44)
全国	12616.7	▲0.22 (9)

※2019年10月1日時点。数字は増減率の順位、▲はマイナス

総人口 1億2616万人

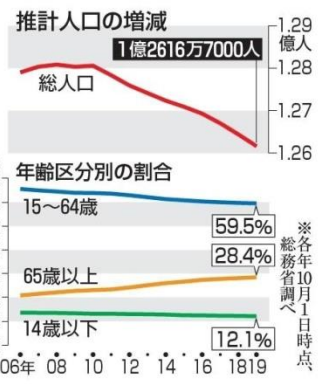
総務省19年推計

40道府県の人口が減らない。少す一方、増加は東京圏(埼玉、千葉、東京、神奈川)を含む7都県にとどまり、一極集中傾向も変わっていない。49万人で14・7%増

15〜64歳 働き手は最低

総務省が14日公表した2019年10月1日時点の人口推計によると、外国人を含む総人口は前年より27万6千人少ない1億2616万7千人だった。9年連続のマイナスで、数字は比較可能な1950年以降で最大の働き手の中心となる15〜64歳の生産年齢人口は750万7千人で、全体に占める割合は0・27減の59・5%と最低を更新した。

が過去最大



2020年 4月15日 朝刊

人口が減った静岡など40道府県のうち、減少率が最も高かったのは秋田の1・48%。減少率は26道府県で前年より拡大しており、拡大幅は福井の0・19%が最も大きかった。静岡は減少率0・43%で、前年より0・01%縮小した。

と、東京圏に愛知、滋賀、沖縄3県を加えた7都県が前年より増加した。増加率のトップは東京都の0・71%。出生数が死亡数を上回る「自然増」は沖縄だけ、6都県は自然減となったが、人口流入による「社会増」が減少分を上回った。

① 2019年10月1日時点の日本の総人口は約何万人ですか。

約[]万人

② ①と同じ時点の静岡県の人口は約何万人ですか。また、人口は増えていますか、減っていますか。

約[]万人 (増えている・減っている) ←○をつける

③ 記事の見出しの□とリード文(最初の5行)の□には同じ漢字2字の言葉が入ります。「記事で伝えたいこと」を考えて、あてはまる言葉を書きましょう。

年 組 名前

解答例

都道府県の人口と増減率

	人口(万人)	増減率 (前年比%)	
北海道	525.0	▲0.68	(27)
青森県	124.6	▲1.31	(46)
岩手県	122.7	▲1.12	(43)
宮城県	230.6	▲0.40	(12)
秋田県	96.6	▲1.48	(47)
山形県	107.8	▲1.15	(44)
福島県	184.6	▲0.98	(38)
茨城県	286.0	▲0.59	(22)
栃木県	193.4	▲0.61	(24)
群馬県	194.2	▲0.50	(16)
千葉県	735.0	0.27	(3)
東京都	625.9	0.08	(7)
神奈川県	1392.1	0.71	(4)
新潟県	919.8	0.24	(14)
富山県	222.3	▲1.00	(39)
石川県	104.4	▲0.66	(25)
福井県	113.8	▲0.50	(16)
山梨県	76.8	▲0.78	(32)
長野県	81.1	▲0.80	(33)
岐阜県	204.9	▲0.70	(29)
静岡県	198.7	▲0.51	(18)
愛知県	364.4	▲0.43	(13)
岐阜県	755.2	0.21	(5)
三重県	178.1	▲0.58	(21)
滋賀県	141.4	▲0.11	(6)
京都府	258.3	▲0.31	(10)
大阪府	880.9	▲0.04	(8)
兵庫県	546.6	▲0.33	(11)
奈良県	133.0	▲0.66	(25)
和歌山県	92.5	▲1.05	(40)
徳島県	55.6	▲0.86	(35)
香川県	67.4	▲0.84	(34)
愛媛県	189.0	▲0.46	(14)
高知県	280.4	▲0.46	(14)
福岡県	135.8	▲0.88	(36)
佐賀県	72.8	▲1.09	(42)
熊本県	95.6	▲0.59	(22)
大分県	133.9	▲0.93	(37)
宮崎県	69.8	▲1.15	(44)
鹿児島県	510.4	▲0.07	(9)
沖縄県	81.5	▲0.55	(20)
全国	12616.7	▲0.22	(2)

※2019年10月1日時点。数字は増減率の順位、▲はマイナス

総人口 1億2616万人

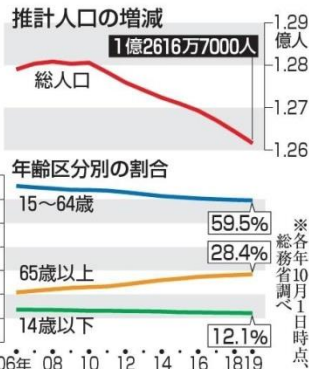
総務省19年推計

15〜64歳 働き手は最低

40道府県の人口が減らない。少す一方、増加は東京圏(埼玉、千葉、東京、神奈川)を含む7都県にとどまり、一極集中傾向も変わっていない。49万人で14・7%と割合は過去最低だった。

総務省が14日公表した2019年10月1日時点の人口推計によると、外国人を含む総人口は前年より27万6千人少ない1億2616万7千人だった。9年連続のマイナスで、数字は比較可能な1950年以降で最大の働き手の中心となる15〜64歳の生産年齢人口は750万7千人で、全体に占める割合は0・22の減少の59・5%と最低を更新した。

が過去最大



2020年
4月15日
朝刊

と、東京圏に愛知、滋賀、沖縄3県を加えた7都県が前年より増加した。増加率のトップは東京都の0・71%。減少率は26道府県で前年より拡大しており、拡大幅は福井の0・19%が最も大きかった。静岡は減少率0・43%で、前年より0・01%縮小した。

と、割合はいずれも過去最高。14歳以下は1521万人で12・1%と割合は過去最低だった。都道府県別に見ると、割合を上回った。人口が減った静岡など40道府県のうち、減少率が最も高かったのは秋田の1・48%。減少率は26道府県で前年より拡大しており、拡大幅は福井の0・19%が最も大きかった。静岡は減少率0・43%で、前年より0・01%縮小した。

① 2019年10月1日時点の日本の総人口は約何万人ですか。

約[1億2616]万人

② ①と同じ時点の静岡県の人口は約何万人ですか。また、人口は増えていますか、減っていますか。

約[364]万人 (増えている・減っている) ←○をつける

③ 記事の見出しの口とリード文(最初の5行)の口には同じ漢字2字の言葉が入ります。「記事で伝えたいこと」を考えて、あてはまる言葉を書きましょう。

減少

年 組 名前